

# ドレスデン国立歌劇場管弦楽団

## (シュターツカペレ・ドレスデン)

### Staatskapelle Dresden

<クリスティアン・ティーレマン (首席指揮者) プロフィール>

Christian Thielemann, Principal Conductor

ティーレマンは、2018/19年シーズンで、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団の首席指揮者として7シーズン目を迎える。ベルリン・ドイツ・オペラで音楽活動を開始し、ゲルゼンキルヒェン、カールスルーエ、ハノーファー、デュッセルドルフで経験を積んだ後、1988年にニュルンベルクで音楽監督となった。1997年故郷のベルリンに戻って2004年までベルリン・ドイツ・オペラの音楽監督を務め、2004~11年にはミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団の音楽総監督を務めた。ドレスデンにおける現在のポジションに加え、2013年よりザルツブルク・イースター音楽祭の芸術監督に就任。同年、ドレスデン国立歌劇場管も同音楽祭のレジデント・オーケストラとなった。

ティーレマンは、ワーグナーとR.シュトラウスの生誕を記念する多数のコンサートを、ドレスデン国立歌劇場やツアーにおいて、同歌劇場管と共に行ってきた。彼のプログラムは、バッハからヘンツェ、リーム、グバイドゥーリナまで、幅広いレパートリーを網羅している。新演出によるオペラとしては、「マノン・レスコー」「シモン・ボッカネグラ」「エレクトラ」「魔弾の射手」を指揮しているほか、ドレスデンで「ニーベルングの指環」の全曲チクルスを2回指揮している。ザルツブルクでは、「パルジファル」「アラベラ」「カヴァレリア・ルスティカーナ」「道化師」「オテロ」「ワルキューレ」「トスカ」のプレミエ公演を指揮している。

ティーレマンはベルリン・フィルとウィーン・フィルの両楽団と緊密なつながりを維持しており、2019年にはウィーン・フィルのニュー・イヤー・コンサートを指揮する予定である。また、バイロイト音楽祭には2000年の夏にデビューして以来毎年のように出演し、ワーグナー解釈の指標を提示して観客を感動させている。そして同音楽祭の音楽顧問を5年間務めた後、2015年には音楽監督に就任した。多彩なコンサート指揮者として引く手数多の彼は、アムステルダム、ロンドン、ニューヨーク、シカゴ、フィラデルフィアの一流オーケストラと共演し、イスラエル、日本、中国でも演奏している。

彼はユニテルの専属アーティストとして、幅広いレコーディングを誇っている。録音における最新の意欲的試みとしては、ブルックナーの交響曲第3番から第9番までと、ブラームスの交響曲及び協奏曲の全曲チクルスがあるほか、オペラでは、「魔弾の射手」「カヴァレリア・ルスティカーナ」「道化師」「エレクトラ」「ワルキューレ」「ローエンングリン」のCDとDVDをリリースしている。

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

ティーレマンとドレスデン国立歌劇場管は、ベートーヴェン、リスト、ブルックナー、レーガー、プフィッツナー、ブゾーニのオーケストラ曲を録音しているほか、様々なジルベスター・コンサートを収録したDVDもリリースしている。また、ウィーン・フィルとの共演でベートーヴェンの交響曲全曲チクルスを録音している。

彼は、ロンドンの王立音楽院の名誉会員であり、ワイマール・リスト音楽院とカトリック大学ルーヴェン（ベルギー）から名誉博士号を授与されている。2015年3月には、ライプツィヒ市のリヒャルト・ワーグナー協会よりリヒャルト・ワーグナー賞を、2016年10月には、ゼンパーオーバー・トラスト賞を受賞した。

### <ドレスデン国立歌劇場管弦楽団（シュターツカペレ・ドレスデン）プロフィール>

#### The Staatskapelle Dresden

1548年にザクセン州の選帝侯モーリッツによって創設された同楽団は、世界最古のオーケストラのひとつであり、長きに渡る歴史の中で、数多くの優れた指揮者と国際的に著名な演奏家たちが、このかつての宮廷楽団に足跡を残してきた。

歴代の楽長には、ハインリヒ・シュッツ、ヨハン・アドルフ・ハッセ、カール・マリア・フォン・ウェーバー、そしてこの楽団を「奇跡のハープ」と呼んだリヒャルト・ワーグナーが名を連ねている。過去100年の首席指揮者には、フリッツ・ライナー、フリッツ・ブッシュ、カール・ベーム、ヨゼフ・カイルベルト、ルドルフ・ケンペ、オトマール・スウィトナー、クルト・ザンデルリンク、ヘルベルト・ブロムシュテット、ジュゼッペ・シノーポリ等がおり、2002～04年にはベルナルト・ハイティンク、2007～10年にはファビオ・ルイジが同ポストを務めた。2012/13年シーズンよりクリスティアン・ティーレマンが首席指揮者に就任。2016年5月、ブロムシュテットが桂冠指揮者に任命された。それ以前の唯一の桂冠指揮者は、1990年から2013年に死去するまでその地位にあったサー・コリン・デイヴィスである。また、2012/13年シーズンよりチョン・ミョンフンが首席客演指揮者を務めている。

リヒャルト・シュトラウスと同楽団は、60年以上に亘って密接な関わりを持っていた。「サロメ」「エレクトラ」「ばらの騎士」を含む彼の9つのオペラがドレスデンで初演されており、「アルプス交響曲」は同楽団に献呈。ほかにも多数の著名な作曲家による作品が同楽団に献呈されている。また2007年には、“カペル・コンポジター”（常任作曲家）という1年間のポストの伝統を再導入。ハンス・ヴェルナー・ヘンツェ、ソフィア・グバイドゥーリナ、ヴォルフガング・リーム、ジェルジュ・クルターク、アルヴォ・ペルトに続き、2018/19年シーズンには、ハンガリー出身の作曲家ペーテル・エトヴェシュがこの肩書を担う。また、同楽団は「カペル・ヴィルトゥオーゾ」として、名ヴァイオリニスト、フランク・ペーター・ツィンマーマンを迎えている。

本拠地のドレスデン国立歌劇場において、同楽団は毎シーズン約250回のオペラとバレエの公演を演奏している。そのほか50回のオーケストラと室内楽のコンサートを、同歌劇場のみならず聖母教

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

JAPAN ARTS CORPORATION

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

会の様々な音楽行事で行っている。また、世界で最も人気の高いオーケストラのひとつとして、世界の主要な音楽都市を定期的に訪れている。

同楽団は、2013年よりザルツブルク・イースター音楽祭の芸術監督ティーレマンのもと、同音楽祭のレジデント・オーケストラを務めている。また2008年10月以来、近隣都市のゲルリッツ＝ズゴジェッツにあるミーティングポイント・ミュージック・メシアン（注：第2次世界大戦中の強制収容所跡地に設立された、ヨーロッパ青少年交流センター）のパトロン・オーケストラとなっており、2010年9月にはゴーリッシュ（ザクセン・スイス）の国際シヨスタコーヴィチ・フェスティバルの創立を援助した。

2007年、ブリュッセルのセレモニーで「世界の音楽遺産の保存のためのヨーロッパ文化財団賞」を受賞。同楽団はこの賞を受賞した初の、そしてこれまでのところ唯一のオーケストラとなった。

(2019年5月現在)

\*プロフィールの一部を使用する場合、日数が経過している場合は、ジャパン・アーツの校正チェックをお受け頂きますようお願い申し上げます。

# Staatskapelle Dresden

Principal Conductor from August 2012

Born in Berlin, Christian Thielemann comes from a family of music-lovers. He began his professional career in 1978 as a rehearsal pianist at the Deutsche Oper in Berlin. Following positions in Gelsenkirchen, Karlsruhe and Hanover he joined the conducting staff at the Rhine Opera in Dusseldorf in 1985. Three years later he became Germany's youngest music director in Nuremberg, before returning to the Deutsche Oper in Berlin in 1997, holding the position of music director there for seven years. Thielemann conducted the Munich Philharmonic Orchestra from 2004 to 2011. In the summer of 2012 he will take up the baton in Dresden as principal conductor to the Staatskapelle.

Christian Thielemann's repertoire is extensive, ranging from Bach to Henze and Gubaidulina. His interpretations of German romantic music, both in opera and on the concert stage, are regarded around the world as exemplary. His Bayreuth debut came in 2000 ("Die Meistersinger von Nürnberg"), since when his annual appearances have set new standards in conducting. At the Salzburg Festival of 2011, Thielemann directed a new production of "Die Frau ohne Schatten" by Richard Strauss.

His lengthy discography with Deutsche Grammophon encompasses numerous symphonic works and operas. Together with the Vienna Philharmonic Orchestra he has recorded a complete cycle of Beethoven's symphonies, also released on DVD in autumn 2010 and on CD in 2011. Up to now his releases with the Staatskapelle have included Bruckner's Eighth Symphony, Beethoven's "Missa solemnis" and the live recordings of the ZDF New Year's Eve Concert in 2010 and 2011 from the Semperoper. Besides, Wagner's "Faust"-compositions and the first piano concertos of both, Liszt and Brahms, together with the pianist Maurizio Pollini were released on CD.

From 2013 on, Thielemann will take over the position as artistic director of the Osterfestspiele Salzburg conducting the Staatskapelle Dresden which will be the festival orchestra.

In October 2011, Christian Thielemann received Honorary Membership of the Royal Academy of Music in London. In the same month, he was awarded with an honorary doctorate of the Liszt School of Music Weimar.

Christian Thielemann Principal Conductor from 2012

Sir Colin Davis Conductor Laureate

株式会社ジャパン・アーツ

<http://www.japanarts.co.jp>

〒150-8905 東京都渋谷区渋谷 2-1-6

TEL: 03-3499-8100 / FAX: 03-3499-8102

**JAPAN ARTS CORPORATION**

<http://www.japanarts.co.jp>

2-1-6, Shibuya Shibuya-ku,

Tokyo JAPAN 150-8905

TEL: 81-3-3499-8091 FAX: 81-3-3499-8092

On 22nd September 2008 the Staatskapelle Dresden celebrated its 460th jubilee. Founded by Prince Elector Moritz von Sachsen in 1548, it is one of the oldest orchestras in the world and steeped in tradition.

Over its long history many distinguished conductors and internationally celebrated instrumentalists have left their mark on this onetime court orchestra. Previous directors include Heinrich Schütz, Johann Adolf Hasse, Carl Maria von Weber and Richard Wagner, who called the ensemble his "miraculous harp".

The list of prominent conductors of the last 100 years includes Ernst von Schuch, Fritz Reiner, Fritz Busch, Karl Böhm, Joseph Keilberth, Rudolf Kempe, Otmar Suitner, Kurt Sanderling, Herbert Blomstedt, Giuseppe Sinopoli and Bernard Haitink. Fabio Luisi was music director of Saxon State Opera and the Staatskapelle Dresden from 2007 to 2010. Christian Thielemann will assume the post of principal conductor to the Staatskapelle from 2012, and Sir Colin Davis has been the orchestra's conductor laureate since 1990.

Richard Strauss and the Staatskapelle were closely linked for more than sixty years. Nine of the composer's operas were premiered in Dresden, including "Salome", "Elektra" and "Der Rosenkavalier", while Strauss's "Alpine Symphony" was dedicated to the orchestra. Countless other famous composers have written works either premiered by the ensemble or dedicated to it. In 2007 the Staatskapelle reaffirmed this tradition by introducing the annual position of "Capell-Compositeur", subsequently held by composers Isabel Mundry, Bernhard Lang, Rebecca Saunders und Johannes Maria Staud. The Capell-Compositrice for the 2011/2012 season is Lera Auerbach.

2015/16 season only. Please contact Japan Arts if you wish to edit this biography.